

忘れる

都府楼跡の原歩く 忘るべきかと息を溜めつつ

忘れよと投げられし言葉激しく 胸を締めくる

左頬打たれ右頬も出せと 叶わぬことばかりを

やわではない 素直であろうと務めてはきたが

梃子でも動かぬという 八十八の母なり今なお

子らを鵜飼いの鵜さながらに配し 指図怠らぬ

幾度も危機あり 心臓腎臓肺臓脾臓の管外せず